

広報

 兵庫医科大学  兵庫医療大学



平成22年度一般入学試験 上:1月30日兵庫医科大学(神戸キャンパス)(左) 右:1月30日兵庫医科大学(神戸ポートアイランドホール)(右)
下:1月27日兵庫医科大学(インテックス大阪)

01 兵庫医科大学の進路支援 本格的にスタート ～キャリアデザインが鍵～

05 最近の主な出来事

<兵庫医科大学>

07 学長メッセージ

09 就任挨拶

10 兵庫医科大学第5回レクチャーシップ「知の創造」を開催/
退職教員(主任教授・教授)の最終講義が行われました

11 兵庫医科大学4年生トリアージ訓練/第37回実験動物慰霊祭/学位の授与
<兵庫医科大学病院>

12 医療安全管理部長メッセージ

13 平成21年度兵庫医科大学病院防災訓練を実施/
第1回兵庫県認知症疾患医療センター研修会を実施/
～クリスマスイベント～人形劇「あかずさんちゃん」を実施
<篠山病院>

14 接遇研修を実施/篠山病院整備工事の進捗状況
<兵庫医科大学>

15 公開講座「いのちのりレー～臓器移植の新たな時代を迎えて～」を開催/
特別講演「阪神・淡路大震災(1.17)から学ぼう」を開催/

16 第2回実験動物慰霊祭/

地域交流プロジェクト「知っておきたいがんの基礎知識～がんどう付き合うか～」を開催
<学校法人兵庫医科大学>

17 理事メッセージ

18 規程等の制定・改正/教職員提案制度について

19 職場紹介

兵庫医科大学病院 臨床検査部
兵庫医科大学篠山病院 病院情報システム構築委員会
兵庫医科大学 看護学部(生活支援看護学)
兵庫医科大学病院 看護部 1号館6階西病棟

23 卒業生紹介

末廣 謙さん(兵庫医科大学第1期生)
日笠 久美さん(兵庫医科大学第1期生)

24 Join us! 一課外活動紹介一

兵庫医科大学 ダンス部/ヨット部
兵庫医療大学 ダンスサークル/テニスサークル

兵庫医療大学の進路支援 本格的にスタート～キャリアデザインが鍵～

兵庫医療大学 第1期生卒業まであと1年! 教職員の手で、バックアップをより強力なものに

世界的不況が続く、就職氷河期の再来に国立私立トップ校までも就職難の影響を受けています。これまで就職実績100%を約束してきた医療系大学においても、医療専門職養成校が増加したことにより、他大学との差別化が求められています。また新卒者の早期離職問題等により、学生のキャリア・就職支援に力を入れる大学が年々増加しています。

そのような状況の中、平成23年3月に兵庫医療大学看護学部とリハビリテーション学部から第1期生が卒業します。平成22年は第1期生にとって卒業後の長い人生の基盤となる就職や進学といった進路決定の年となり、また兵庫医療大学にとっても第1期生の進路の充実が、国家試験合格と同様に今後の大学運営を左右する勝負の年となります。

兵庫医療大学は、同法人である兵庫医科大学との連携、学部を超えた教育・実習環境のもと、早期から「チーム医療」を実践できる医療専門職を育成してきたという強みがあります。しかし、この厳しい社会環境で生き抜くためには教職員が一体となって学生の進路支援を強力にサポートしていかなければいけません。

兵庫医療大学で1期生の就職に向けた合同病院説明会を実施

■兵庫医科大学病院・兵庫医科大学篠山病院合同説明会【看護学部3年生対象】

平成22年2月18日HM113講義室で就職説明会が実施され、松田学長、佐藤副学長の挨拶に続き、兵庫医科大学病院、篠山病院の順に病院長や看護部長による病院説明、先輩看護師からのメッセージ、採用担当者による募集要項の説明が行われました。

説明会に続いて実施された個別相談会では、「希望する診療科への配属は可能ですか?」「夜勤はいつから始まりますか?」「宿舎の環境はよいですか?」など具体的な質問があり、就職活動への意識の高まりが感じられました。

※リハビリテーション学部対象の合同病院説明会は後日実施予定



キャリアデザインセンター
林副センター長

「先輩看護師から、働き始めてからの苦労話や先輩たちに助けられたこと、患者さんから学んだことや仕事のやりがいなどの具体的な話を聞いて有意義だったと思います。今後のキャリア形成や仕事を上での参考にしてください。」



参加した学生 峰 早也圭さん

「まだ具体的にどのような診療科や専門に進みたいか決まっていますが、病院見学やセミナーなどを利用して、この春休み中にしっかりと考えたいです。そして、ある程度の方向性を固めて、4年生では実習や国家資格試験対策に集中したいと思います。先生方やキャリアデザインセンターの皆さんにいつでも親切に指導していただいています。」



兵庫医科大学病院
個別相談会

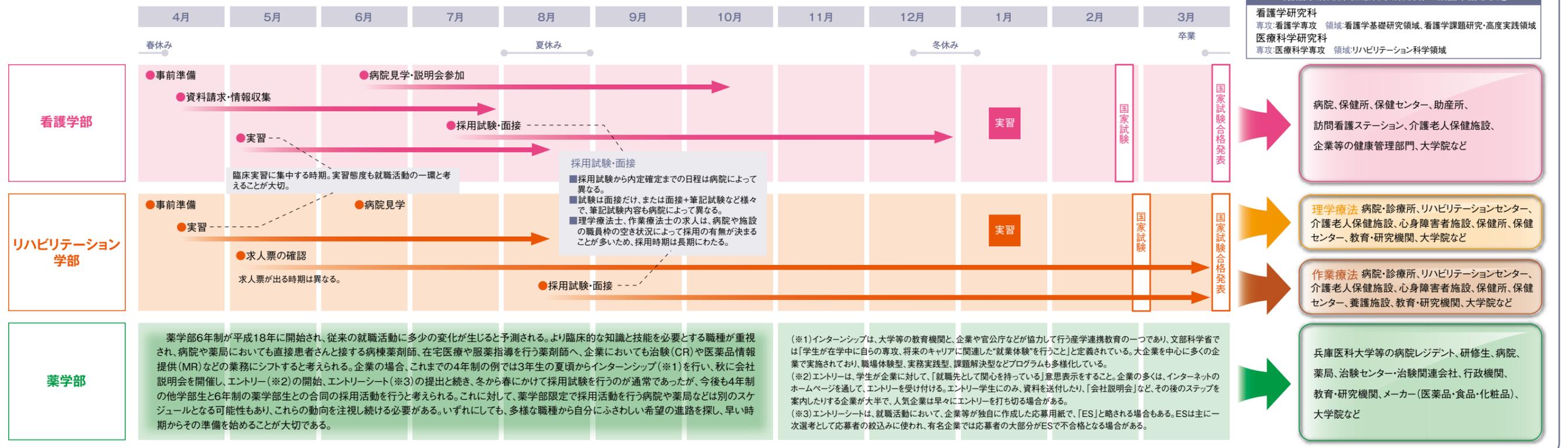


兵庫医科大学篠山病院
個別相談会

■学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会を平成22年5月8日に実施予定

学校法人兵庫医科大学連携病院の会は、学校法人兵庫医科大学と会員の連携病院が人事の交流等により相互の活性化を促進し、組織的な連携を強めること、効率的で有効な学生教育に資すること、地域医療の向上に寄与すること等を目的に平成21年4月に設置され、平成22年2月現在で120病院が入会されています。当日は、ご参加いただける病院が各ブースを設けて、病院説明会を実施する予定です。

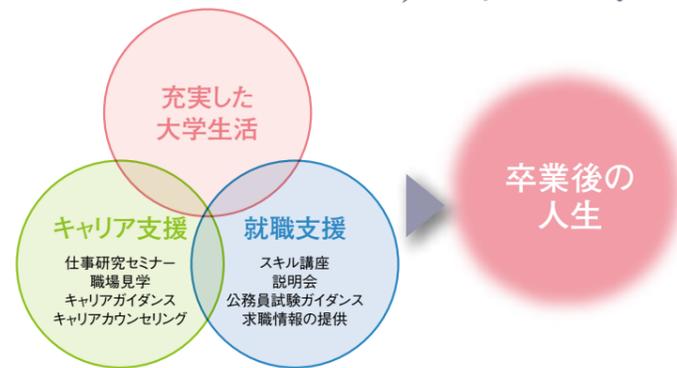
■就職活動モデルスケジュール



キャリアデザインセンターのサポート

～低学年次から卒業後まで～

平成21年4月に開設された兵庫医療大学キャリアデザインセンターでは、卒業年次を対象とした病院説明会や各種ガイダンス、求職情報の提供などの「就職支援」と、進路を考え、キャリアデザインの基盤作りとなる「キャリア支援」を行うことにより、学生の卒業後の充実した進路選択をサポートしています。



キャリアデザインセンター スタッフの鷲尾さん(日本キャリア開発協会認定 CDA)

「低学年のうちから自分の将来像を明確にすることで、その実現に向けて主体的に取り組むことの重要性を学生自身が実感し、日々の授業や実習での学び、学内外での生活を充実させることの大切さへの「気付き」を促すことを第一に考えています。」

これまでに実施した内容

【キャリア支援】○仕事研究セミナー ○病院等施設職場見学
○キャリアガイダンス ○キャリアカウンセリング

【就職支援】○学内合同病院説明会(兵庫医科大学病院・兵庫医科大学篠山病院)
○就職ガイダンス ○公務員試験ガイダンス ○個別指導



更に平成22年度は下記を予定。就職支援を強化していきます。
○学校法人兵庫医科大学連携病院の会、合同病院説明会の開催
○就活スキル講座(例:履歴書の書き方、面接対策、マナー等)
○パソコンでの求人票検索システムの導入
○学生向け、キャリア・就職支援に関するホームページの開設
○進路希望調査の実施



説明会やガイダンスの時期に合わせて、配付します。

■仕事研究セミナー「私の仕事」

先輩のいない(少ない)学生に対して、実習ではなかなか聞くことができない現場の話の聞いたり、質問をする場を設け、進路の幅を広げます。医療専門職としての心構え、大切にしていること、学生時代しておくべきことなどを聞くことで、職業観の育成、学習意識の向上につなげます。

〈平成21年度実施プログラム〉

- 「看護師から高校教諭へ」平成21年6月30日
- 「MR女子のため息」平成21年10月8日
- 「薬理研究と企業診療所(管理薬剤師)」平成21年12月3日
- 「合成研究とEYEケア・ベンチャーへ」平成21年12月17日
- 「記者から仕事現場へ」平成21年11月5日
- 「作業療法の広がり可能性」平成22年1月6日

■病院等施設職場見学

夏休みなどの長期休暇中に学生自らが主体となって、専攻や将来の仕事に関連した就業体験を行います。学生の自主性・積極性や職業意識の育成、就職先に対する理解の促進を目的としています。

作業療法の広がり可能性(平成22年1月6日)

講師:岸本徹彦氏 神戸総合医療専門学校 作業療法士科教務主任



近年、メディアでも注目されるようになった、司法分野での作業療法士の仕事について講演。刑務所で知的障害のある受刑者に対し、作業療法や生活技能訓練(SST)などの手段を用いて、再犯を防止するため「生活をする力」をつけるための支援や、その有効性について解説され、学生たちはこれからの作業療法の広がりを実感しました。

■キャリアデザインガイダンス

進路について考えるきっかけを作り、今後の課題(実習や国家資格試験対策など)取り組みへのモチベーションアップを図ります。就職環境を知り、自己分析や情報収集の方法などを学べる機会にもなります。

第1回ガイダンス(平成21年12月24日)

講師:小西 紀子氏
株式会社毎日コミュニケーションズ



「第1部:これからのキャリアデザイン」(全学部対象)では、就職環境の現状や職業選択の考え方、これからすべきことなどを解説。企業の採用に係る統計結果、就職活動を終えた学生の声などの紹介も。

「第2部:薬学を学ぶことでひろがる職業選択の可能性」(薬学部対象)では薬学部生を取り巻く就職環境や、薬学を活かした仕事の特徴とそれぞれの採用スケジュール、情報収集する際のポイントなどを解説。

「企業が内定を出す際に重視する点」の上位項目

性格・人柄、コミュニケーション能力の高さ、入社意欲(熱意)の高さ

先輩たちの反省点「就職活動を始めるまでに知っておけばよかったこと」の上位項目

一般常識、自分の適性、自分の能力 業界についての知識、職種についての知識

■公務員試験ガイダンス

地方・国家公務員として保健所や病院への就職を希望する学生に、採用状況や試験内容(教養・専門・論文・面接等)の対策とそのポイントを解説します。保健師などの高倍率となる職種は一次試験での教養試験が最大の難関であり、早期からの準備が必要です。



第1回公務員試験ガイダンス(平成21年8月7日)



第2回公務員試験(保健師)ガイダンス(平成21年9月7日)
第3回公務員試験(保健師)ガイダンス(平成22年2月23日)

参加した学生はこう思った!

仕事研究セミナー

●講義で学んだことについて、現場でどう実践されているかを知ることができた。 ●資格の活かし方、働き方など、選択肢が広がった ●資格を生かせる仕事をもっと知りたい。 ●自分の学んでいる分野が様々なところで必要とされていることを知り、モチベーションが上がった。 ●製薬会社での実際の薬の開発について聞くことができてよかった。 ●科目に苦手分野があったが、セミナーを聞いて興味湧いてきた。 ●目標を持ち、時間を有効に使うことが大切であることを学んだ。 ●医療系の就職活動の流れをもっと知りたい。

病院職場見学

●どのような薬剤師になりたいか目標が見つかった。 ●今後、勉強に対するモチベーションがあがりそう。 ●思い描いていた理学療法士の方に会えて、更にやる気がでた。

■強力なサポートを!

藤田 幸久 キャリアデザインセンター長
共通教育センター 教授

短期間のわか勉強から、何かをつくる、何かを説明する、誰かを介護するなどの、単純あるいは熟練「労働(仕事、work あるいは job)」を積み重ねていった延長線上にキャリア(career)、すなわち「生涯を通じての専門的職業」があり、キャリアを立体的に拡張して複合的な成果が「人生(life)」であると考えています。

キャリアデザインセンターは学生が社会人として生き抜くのに必要な知識、考え方やマナーを習得するための教育を支援し、更に学生が大学で培った能力を社会で最大限に発揮して生き甲斐を感じることでできる就職を実現し、社会に有益な医療専門職を送り出すことを使命としています。これを全うするためには、全教職員、保護者、地域の方々の強力なサポートが必要です。ご支援よろしくお願ひします。



最近の主な出来事

12月 December

4	兵庫医療大学	「ボーアイ4大学による連携事業」講演会	～世界エイズデーによせて～「多様性を認め合う社会へーHIV+（ポジティブ）のボクからあなたへのメッセージ」をテーマに、ボーアイ健康・生活支援ステーションが講演会を開催しました。
5	兵庫医療大学	平成21年度推薦入学試験 ＜併願制B日程＞	(12月11日合格発表) 広報203号(新年号)で結果を掲載しました。
	兵庫医科大学病院	第2回兵庫医科大学病院 病薬連携セミナー	3-1 講義室において開催され、近隣の薬剤師会の会員薬局等40名を含め、院内外から52名が参加しました。特別講演「ヘリコバクターピロリ除菌療法の実践」(内視鏡センター 堀 和敏講師)が行われました。
8	兵庫医科大学	実験動物慰霊祭	→P11をご覧ください。
9	兵庫医科大学病院	市民健康講座	第3会議室において、小児科 岡本 恭明助教が「子どもの感染症」をテーマに講演を行いました。
16	兵庫医科大学	学位授与式	→P11をご覧ください。
19	兵庫医科大学病院	市民公開講座 「アスベストによる健康障害を考える」 主催:平成21年度科学技術振興調整費 後援:兵庫医科大学	平成21年度科学技術振興調整費「アスベスト関連疾患への総合的取り組み」として、3-2講義室において開催されました。 講演1「アスベストによる病気」 兵庫医科大学内科学呼吸器・RCU科 福岡 和也准教授 講演2「肺がんと中皮腫」 兵庫医科大学内科学呼吸器・RCU科 田村 邦宣助教 講演3「尼崎市におけるアスベスト対策について」 黒田クリニック 黒田 佳治院長(労働衛生コンサルタント)
	兵庫医療大学	「ボーアイ4大学による連携事業」 健康・生活・安心サポート 一健康生活を守るための介護予防・ 介護する人の支援ー全8回コース	地域連携実践センターにおいて、第8回「大往生するために」をテーマに、看護学部の土居 洋子教授が講演を行いました。
22	学校法人兵庫医科大学	第7回篠山物産展	1号館前(西側)において開催され、黒豆(新豆)、もち米、霧芋、黒豆加工品など丹波篠山の産物が販売されました。
24	兵庫医科大学病院	人形劇「あかずきんちゃん」	→P13をご覧ください。
	兵庫医療大学	第1回キャリアデザインガイダンス	→P1をご覧ください。

1月 January

6	兵庫医療大学	第4回仕事研究セミナー	「私の仕事～作業療法の広がり」と可能性～」→P1をご覧ください。
9	兵庫医療大学	「ボーアイ4大学による連携事業」 公開講座	「いのちのリレー ～臓器移植の新たな時代を迎えて～」 →P15をご覧ください。
16	兵庫医科大学病院	平成21年度 第3回兵庫肝疾患診療連携フォーラム	平成記念会館において開催され、下記の講演が行われました。 一般講演:「インターフェロン治療患者における患者指導」 看護部 峯瀬 美千代師長 「肝疾患の栄養・食事治療のあり方」 臨床栄養部 三野 幸治主任栄養士 特別講演:「C型肝炎と脂質・糖質・アミノ酸代謝」 東京大学医学部附属病院 感染制御部 森屋 恭爾教授 「インターフェロンの精神的副作用と対策」 久留米大学医学部 神経精神医学講座 内村 直尚教授



「ボーアイ4大学による連携事業」講演会



第2回兵庫医科大学病院 病薬連携セミナー



「ボーアイ4大学による連携事業」



人形劇「あかずきんちゃん」



第1回キャリアデザインガイダンス



第4回仕事研究セミナー



「ボーアイ4大学による連携事業」公開講座



平成21年度第3回兵庫肝疾患診療連携フォーラム

18	兵庫医療大学	特別講演「阪神大震災から学ぼう」	→P15をご覧ください。
	学校法人兵庫医科大学	会計検査(18日～20日)	3日間にわたり、会計検査院による実地検査が行われました。
19	兵庫医科大学	兵庫医科大学第5回レクチャーシップ 「知の創造」	→P10をご覧ください。
20	兵庫医科大学病院	市民健康講座	4-1 講義室において、産科婦人科 鏑本 浩志講師が「子宮頸がんのワクチン」をテーマに講演を行いました。
	兵庫医療大学	「ボーアイ4大学による連携事業」 公開講座	知っておきたいがんの基礎知識～がんとう付き合うか～(1月20、21、27、28日)→P16をご覧ください。
21	兵庫医療大学	実験動物慰霊祭	→P16をご覧ください。
26	兵庫医科大学病院	医療講演会	3-3 講義室において、田辺三菱製薬株式会社 営業推進部 谷澤 正明氏によるDPCに関する医療講演会が行われました。医師、看護師、コメディカル、事務等186名が参加しました。
	篠山病院	接遇研修	→P14をご覧ください。
28	兵庫医科大学病院	第1回兵庫県認知症疾患医療センター 研修会	→P13をご覧ください。



特別講演「阪神大震災から学ぼう」



兵庫医科大学第5回レクチャーシップ「知の創造」



市民健康講座



「ボーアイ4大学による連携事業」公開講座



接遇研修



第1回兵庫県認知症疾患医療センター研修会

TOPICS 一般入試が行われました

詳細は広報205号(4月号)で掲載します。

兵庫医科大学

一次試験：1月27日(水) 合格発表：2月4日(木)

試験会場	受験者数	(志願者数)
大阪会場	1,351名	(1,418名)
東京会場	433名	(491名)
福岡会場	316名	(339名)



大阪会場試験:初めてインテックス大阪(大阪市住之江区南港北)で実施

二次試験：2月6日(土)、7日(日)(いずれかの希望日)

合格発表：2月15日(月)

大学入試センター試験利用入試：志願者数 629名

一次試験合格発表：2月15日(月) 二次試験合格発表：2月24日(水)

兵庫医療大学

前期A日程：1月30日(土) 合格発表：2月10日(水)

学部	受験者数	(志願者数)
薬学部	131名	(136名)
看護学部	522名	(531名)
リハビリテーション学部(理学療法学科)	197名	(199名)
リハビリテーション学部(作業療法学科)	51名	(51名)



神戸ポートアイランドホール(ワールド記念ホール)〈看護学部〉

前期B日程：1月31日(日) 合格発表：2月10日(水)

学部	受験者数	(志願者数)
薬学部	112名	(114名)
リハビリテーション学部(作業療法学科)	65名	(65名)

大学入試センター試験利用入試

学部	志願者数
薬学部	46名
看護学部	212名

後期日程：2月27日(土) 合格発表：3月9日(火)

合格発表：2月10日(水)



学長の任期を終えるにあたって

兵庫医科大学 学長 | 波田 壽一

早 いもので私が学長に就任して今年の3月末で満6年になり規定に則って学長職を退くことになりました。この6年間、曲がりなりにも学長職を全うすることが出来たのは教職員の皆様、後援会、同窓会の皆様のご支援、ご協力の賜物でありまして、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

私が学長に就任いたしましたのは平成16年4月でありました。当時は兵庫医療大学創設に向けての賛否が学内で議論になっておりましたが紆余曲折をへて平成19年4月に開学し、今日まで松田暉学長以下教職員の皆様のご努力で順調に推移しておりますことはご承知の通りであります。

こ の6年間を振り返ってみて私にとって最大の出来事は平成21年2月に実施された第103回の医師国家試験で本学の新卒業生104名が全員合格したことであります。これは兵庫医科大学創立以来の快挙であり、本学の地位を高めただけでなく、卒業生や在学生に誇りと自信を持ってもらうことが出来たのではないかと思います。しかし、この裏には留年生がいることも事実であり、低学力者支援のための一層の工夫をする必要があります。この点に関しましては野口教務部長、鈴木医学教育センター長を中心に検討していただいております。今後の課題でもあります。

教 育関連のこれまでの取り組みについては今年の1月に発行されました本学後援会誌「筈のたより」に記載しておりますので、それをご覧いただくことに

させていただきます。ここでは研究面を中心に6年間を振り返りたいと思います。

本学は良医の育成を第一義的使命としておりますが、大学でありますので研究面でも良い研究をして社会に貢献することが求められています。因みに本学の研究力の一つの指標であります文部科学省関係の「科学研究費」の取得状況をみますと、取得額は平成16年度は、162,900[千円]ですが、その後増加し、平成21年度は201,300[千円]（何れも直接経費）となりました。この額は私立医科大学で医学部のみの単科医科大学と、医学部と他に1学部を持つ大学を合すると16大学になりますが、その中ではトップであります。

採 択件数は平成16年度が71件（採択率35.3%）で平成21年度は92件（40.5%）と増えてはいますが、前記16大学中6位であり、この点では今後共に努力する必要があります。また、本学から報告された論文総数（原著、総説、著書等（英文、和文を含む））は平成16年723編、平成17年936編、平成18年931編、平成19年912編、平成20年1009編と増加しております。この事を見ても本学は教育実績のみならず研究でも大いに気を吐いていることを示しています。

研 究力を維持、発展させるためには大学院の充実が必須であります。人材を有効且つ効率的に育成する目的で、本学は平成18年度に大学院の大規模な改組・再編成を行い、従来の生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系という5つの専攻区分を廃止

し、2つの専攻科（医科学専攻科、先端医学専攻科）とその下に8つの研究分野（器官・代謝制御系、高次神経制御系、生体応答制御系、生体再生制御系、環境病態制御系、分子病態制御系、疼痛情報制御系、分子再生医学系、このうち前5系が医科学専攻科に属し、残り3系が先端医学専攻科に属す）を設置しました。各々の系には複数の講座が含まれ、共同研究をより容易に行うことが出来る体制にしました。

ま た、平成19年度に文部科学省の大学改革推進事業の一つである「がんプロフェッショナル養成プラン」に本学は近畿大学、大阪市立大学、大阪府立大学、神戸大学、神戸市看護大学と共に「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン ～近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国公立大連携プロジェクト～」という事業名で応募し、採択されました。



6大学連携オンコロジーチーム養成プラン 調印式（平成19年8月31日）

この事業は平成19年度から23年度の5年間に亘って医学研究科において行われる事業で本学では「放射線腫瘍専門医養成コース」、「医学物理士養成コース」、「がん薬物療法専門医養成コース」の3つのコースを開講しています。これに付随して地域がん診療に携わる医療従事者のがん診療水準の向上を図る目的で医師、その他を対象にしたインテンシブコース（研修コース）が設けられ、本学には「放射線治療インテンシブコース」、「がん疼痛制御（緩和ケア）インテンシブコース」、「がん薬物療法医インテンシブコース」、「がん薬物療法薬剤師インテンシブコース」の4つがあります。これらは「がん対策基本法」に沿ってがん診療の水準を高めるための取り組みということで本学もこれに加わって社会貢献に参加していることになります。

そ の他大学院に関しては、平成17年度から昼夜開講制を導入し、これにより学位未修得の教員、病院助手、レジデント、学外で勤務されている学位未修得の医師等が夜間履修学生として入学し、学位の取得を目指し易くしています。今ひとつ本学の研究を支えている組織に平成9年4月に開設された先端医学研究所がありますが、組織のスクラップアンドビルドを行い、現在は生体防御部門、細胞移植部門、細胞・遺伝子治療部門、神経再生研究部門、アレルギー疾患研究部門の5部門となっています。今後とも本学の研究の一翼を担って活動していただけると確信しております。一方、研究面での国際交流に関しては、平成18年3月に天津医科大学（中国）と「学術交流協定」を結び、それに則って平成19年度から両大学が一緒になって「国際学術交流シンポジウム」を毎年交互に主催することを決め、これまでに3回行っております。今後も継続して行われる予定であります。



国際学術交流シンポジウム（平成19年9月26日）

今 後更に研究面での発展の為には、大学院の指導力の強化、先端医学研究所の充実、学内外の研究者との共同研究なども必要と考えています。以上のように本学は研究面でも着実に成果を上げ、研究力を付けてきていると思います。これまで蓄えてきた研究力を足場にして、兵庫医科大学が今後一層飛躍、発展することを願っております。

就任挨拶



外科学 小児外科
教授 奥山 宏臣
〈平成21年12月1日就任〉

平成20年4月、外科の臓器別再編に伴い小児外科が診療部門として独立し、平成20年7月より常勤スタッフが3名となり現在の診療体制が整いました。以来1年あまりが経過した平成21年12月1日に小児外科教室にとっては初めての教授職を拝命致しました。まだまだ外科系各部門の全面的な協力の下での診療体制となりますが、兵庫医科大学の小児外科にとって大きな節目に立ち会えたことは光栄なことですし、その責任の重さに身が引き締まる思いです。

診療部長として着任後はいくつかの新しい診療に取り組ん

できました。これまで患者さんのご家族より要望が多かった日帰り手術を昨年5月より始めました。鼠径ヘルニアなどの小手術が対象ですが、大きなトラブルなく順調に運営されています。また成人領域での普及が目覚ましい内視鏡外科を小児にも積極的に取り入れてきました。創が小さく痛みの少ない手術を心がけています。一方、小児科、新生児科、産科とも連携して、新生児外科の出生前診断や小児がんなどの高い専門性を要する診療にも取り組んでいます。周辺地区を含めると200万近い人口を擁する阪神地区で、新しい体制となった兵庫医科大学の小児外科が担ってゆく役割は今後ますます大きくなっていくと思われま。地域の皆様に信頼され、次世代を担う人材を育成することを目標に、スタッフ一同努力していく所存ですので、これからもより一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。



外科学 乳腺・内分泌外科
教授 三好 康雄
〈平成21年12月1日就任〉

このたび兵庫医科大学乳腺・内分泌外科の教授に就任させていただきました。私は昭和59年大阪大学を卒業後、大阪大学第二外科を経て平成10年より大阪大学乳腺・内分泌外科に所属、平成19年11月兵庫医科大学乳腺・内分泌外科に着任いたしました。当科では乳腺疾患と上皮小体の手術を中心に診療を行っています。乳腺に関しては診断から手術、術後の化学療法、再発治療に至るまで幅広く扱うため、多くの診療科との連携が必要です。この2年間で診療体制を整えることができたのも、各診療科の多くの先生方のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

乳癌は女性に発症する癌のなかで第1位であり、20人に1人

の割合で発症します。当科ではマンモグラフィの微小石灰化で発見される早期乳癌の診断装置(ステレオマンモーム)を有しており、形成外科と合同で一期的乳房再建術にも対応しております。また、術後の化学療法、ホルモン療法、分子標的治療薬によって乳癌の再発を半分以下に低下させることが可能であるため、個々の女性に最適な治療を行うことにも重点を置いています。さらに、化学療法の副作用に対するサポートを行うため、外来化学療法室を中心に医師、薬剤師、看護師によるチーム医療を実践しています。このように当院ではあらゆる乳腺診療が実践可能な恵まれた環境にありますので、今後とも診療体制の充実に努めていきたいと思。さらに、大学病院の特性を生かし、遺伝性乳癌のマネージメントや遺伝子解析によるリスク診断、流血中の癌細胞のモニタリングなどの先端医療も診療に活用したいと考えております。今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

兵庫医科大学第5回レクチャーシップ「知の創造」を開催

平成22年1月19日(火)平成記念会館において兵庫医科大学第5回レクチャーシップ「知の創造」が開催され、552名(医学部生422名、大学院生20名、教職員80名)が参加しました。

レクチャーシップ「知の創造」は国際的に著名な研究者の講演を生で聞くことで、本学における研究レベルの向上、研究マインド醸成の一助となることを目的として毎年開催しています。

挨拶で学長は「研究なくして医学医療の進歩はなく、研究は楽しく、素晴らしいものであることを知り、研究意欲を高めるきっかけにしてほしい。またこの機会に研究者の人生哲学などにも触れてみてほしい」と話され、また座長の岡村先端医学研究所長は「良い医師であるためには、科学者としての“観察力”や“洞察力”を備えておくことが大切です。今回のような教員と学生が一同に介する講演は大変有意義なことである」と述べられました。

今回は慶應義塾大学医学部生理学教室 岡野 栄之 教授をお招きし、iPS細胞を用いた神経再生研究やパーキンソン病などの神経難病の研究における最新成果の紹介、創薬研究への展望についてお話しいただきました。質疑応答では、会場から「いつ臨床応用が可能になりますか?」などの質問もあり、iPS細胞に対する関心の高さがうかがえました。

講演後、岡野教授は学生に対して「君たちには無限のチャンスが待っています。チャンスを活かすも、失うのも君たち次第。人類の未来は君たちの双肩にかかっており、期待しています!」とメッセージをくださいました。



慶應義塾大学医学部生理学教室 教授 岡野 栄之氏



プログラム

- 挨拶 兵庫医科大学 学長 波田 壽一
- 講演 座長 兵庫医科大学 先端医学研究所長 兼生体防御部門長 岡村 春樹
「iPS細胞を用いた神経疾患研究・再生医学と創薬への応用」
慶應義塾大学医学部生理学教室 教授 岡野 栄之氏
(文部科学省大臣表彰科学技術賞受賞、紫綬褒章受賞)
- 質疑応答

退職教員(主任教授・教授)の最終講義が行われました

平成21年度末で定年退職される主任教授、教授による最終講義が3-3講義室において行われました。長年にわたる教育・研究・診療や兵庫医科大学での思い出なども盛り込まれ、教職員、学生が熱心に聴き入りました。

※例年、年度末に開催していた退職記念講演会は、平成21年度より当該教員の最終講義がその替わりとなりました。



平成21年10月15日「医系物理化学(医系物理化学Ⅱ)」
医系物理化学 秦 順一 教授



平成21年10月22日「化学(生体の化学Ⅱ)」
化学 山田 盛男 主任教授



平成21年12月10日「精神の疾患」
精神科神経科学 守田 嘉男 主任教授

兵庫医科大学4年生 トリアージ訓練 実施

平成22年1月15日(金)9号館5階講義室において、4年生47人がトリアージ訓練に取り組みました。これは4年次の授業(診察法実習)の一環で、既に別の4年生47人は平成21年8月に訓練を終えています。

訓練の目的はSTART法(多くの患者さんに対して治療の優先順位を決める方法)の基本の習得で、1回あたり4~6分の間で3名の患者さんの状態を判断するという訓練を、計8回行いました。救命救急センターのチューターの先生方から「まずは患者さんに兵庫医科大学の医療班であることを名乗ること」「速やかにトリアージに必要な情報を把握すること」「トリアージ区分を判断した決定的な情報(疾病・症状)を必ず記載すること」「特記事項含め、他の項目についてもできる限り記述すること」などの基本的な指導を受けました。



第37回実験動物慰霊祭

平成21年12月8日(火)9-1講義室において、第37回実験動物慰霊祭が挙行了されました。本学では、医学教育・研究及び医療の向上のために尊い命を捧げてくれた多くの実験動物の御霊に対し、感謝の意を表すため、毎年12月に実験動物慰霊祭を執り行っております。

全員黙祷の後、研究者を代表して飯島教授(超音波センター長)による慰霊の詞が捧げられました。次いで、波田学長、新家理事長、寺田主任教授(動物実験委員長)、辻村主任教授(動物実験施設運営委員長)、佐加良准教授(実験動物管理者)、古川学務部長に続いて参列者全員が順次献花を行い、動物の御霊が安らかならんことを祈りました。



学位の授与



内科系 辰巳 美晶

甲第534号(平成20年7月31日)

inad マウスにおける末梢神経病変



医科学 石井 昌明

甲第535号(平成21年11月5日)

Ectopic Synaptic Ribbons in the Dendrites of Mouse Retinal ON and OFF Bipolar Cells (マウス網膜ON型およびOFF型双極細胞樹状突起におけるシナプスリボンの異所性発現)



精神科神経科学 西井 理恵

乙第316号(平成21年11月5日)

Influence of Different Forms of Expanded Polyglutamine-containing Aggregates on the Distribution and Size of Neurons in Huntington's Disease (ハンチントン病において、伸長ポリグルタミンを含む凝集体の形態の違いが神経細胞の分布と大きさへ与える影響について)



呼吸器外科学 奥村 好邦

乙第317号(平成21年11月5日)

Circulating tumor cells in pulmonary venous blood of primary lung cancer patients (原発性肺癌患者の肺静脈内における循環腫瘍細胞について)



安全で質の高い医療を目指して ~医療安全管理の取り組み~

医療安全管理部 部長 | 吉矢 晋一

(兵庫医科大学病院副院長)

兵 庫医科大学病院で診療を受けられる皆さまに安全で質の高い医療を提供することは、病院の理念にも挙げられる最も重要な責務の一つです。そのためにいろいろな努力・試みがなされていますが、なかでも医療安全管理部の果たすべき役割は大きいものがあります。

大 学病院では、特定機能病院として高度で先進的な医療が行われますが、一方で、重度の合併症を持つ患者さんも多く、また多くの職種の複数の人間が一人の患者さんの診療にかかわることや、医療従事者の研修・教育という任務も担っていることなど、医療事故発生の要因も有しています。そのような状況のなかで、我々の部門ではインシデントや医療事故の情報収集・分析とそれに基づいた再発防止案の立案やその後とられた対策の評価、医療安全ニュースの発行、研修会の実施、事故発生時の対応などの業務を、2名の専従を含む10名の部員、3名の事務職員、16名の委員、そして各部署のセーフティマネージャーの方々などの協力をいただいております。業務の一部を紹介させていただきますと、毎月約200件のインシデント・医療事故の報告を受け、分析・対応しています。また重大な医療事故の際には、検討部会を招集し、病院組織として調査・分析・再発防止に取り組み、必要と考えられたときには対外的に報告や公表が行われる場合もあります。

次 にこの1年の活動や、現在取り組んでいることなど、いくつか具体的に紹介させていただきます。本年度、手術に際して「タイムアウト」制度が導入されまし

た。タイムアウトはスポーツの世界では試合中にタイムをとって作戦の確認や指示など行うことに対して用いられますが、仕事の手を休め小休止をとる、という意味もあります。手術室では現在、すべての手術前に患者さんのお名前や手術部位・術式の確認、手術の終わりで創を閉じる前にはガーゼや手術器具の体内への置き忘れや取り残しがないかどうかの確認が、いったんみんなの手を休めて行われています。手術をする側の人間からしますと、追加の時間がとられる、という感もありますが、患者さんや手術部位の間違いやガーゼ・手術器具の置き忘れなど、起こってはならないことが防止できる手立てになればと思うと、この「タイムアウト」の習慣の定着は、ある意味では安心感につながっています。現在取り組んでいるテーマは静脈血栓・塞栓症予防に関するリスク評価・標準予防策の見直し、エコーガイド下の中心静脈カテーテル挿入のシステムの標準化などです。

一 方、以前からの継続課題は、医師サイドからのレポート報告の少なさです。医療安全を根付かせていくための基本の一つは、職員個々の意識です。日々の診療行為に追われる中ではありますが、一人一人の患者さんに、個人としても組織としても出来る限りの手立てを尽くし安全で質の高い医療を提供するという観点から、個々の部署での意識定着の取り組みを提案していきたいと思っています。

平成21年度兵庫医科大学病院防災訓練を実施

平成22年1月15日(金)、教職員(医師、看護師、コメディカル、事務職員)、医学部学生(4年生)の約150名が参加する平成21年度防災訓練が兵庫医科大学病院10号館1階北側玄関前でわれました。

この防災訓練は平成14年から毎年実施しており、大規模災害の発生により、多数の負傷者が本学病院に搬送された場合を想定し、患者さんを円滑に受け入れ、トリアージ訓練を行うことを目的としています。医学部学生は授業(診察法実習)の一環として患者役や家族役等で参加しました。負傷者にはムラージュ(ケガの状態をリアルに特殊メイクすること)を施すなど実際の現場さながらの緊迫した状況の中、参加者たちは真剣に取り組んでいました。

訓練終了後、太城病院長他、各エリアの評価者及び救命救急センター長らは「このような緊急時には、他職種と連携して迅速な対応をする必要がある。今回の訓練では十分なコミュニケーションが取れていないと感じた。混乱した現場では、大きな声でハッキリと声を掛け合うことが大切」と講評されました。

いつどのような状況で発生するか分からない災害に対して、負傷者の円滑な受け入れ体制の確立は災害拠点病院としての使命です。今回の訓練で得た課題を検証し、更に有意義な訓練とすべく教職員一同取り組んでいきます。



第1回兵庫県認知症疾患医療センター研修会を実施

平成22年1月28日(木)、3-2講義室で第1回兵庫県認知症疾患医療センター研修会を実施しました。(平成21年4月に兵庫県から認知症疾患医療センターの指定を受けました)

当日は83名の参加があり、守田 嘉男センター長(兵庫医科大学精神科神経科学 主任教授)の開会挨拶の後、兵庫医科大学精神科神経科学 植木 昭紀 准教授が「認知症の基礎知識 ―認知症診療に初めて携わる前に―」の講演を行いました。認知症の定義と具体的な症状、認知症の類似症状との鑑別、認知症を早い段階で発見するための手段、早期発見の意義などについてわかりやすく解説されました。



植木准教授

～クリスマスイベント～ 人形劇「あかずきんちゃん」を実施

入院中の子どもたちにクリスマスを楽しんでもらおうと、平成21年12月24日(木)、第2会議室(10号館3階)で人形劇「あかずきんちゃん」の公演が行われ、0歳から16歳までの13人と保護者が参加しました。当日は新型インフルエンザの感染予防策として、参加者全員にマスクを着用してもらい、座席の間隔を空けて着席するなどの対策をとりました。

演じたのは人形劇団「ののほな」で、平成21年9月に「ちいちいにんにん」を本学で演じ、子どもたちに好評でした。2度目の登場となった今回も、手作りの舞台セットと可愛い人形を使っていつもの役をコミカルに演じ、子どもたちを人形劇の世界に引き込んでいました。

劇団員の納富(のうとみ)さんは、「みんな熱心に見てくれ、とても良く反応してくれました。『頑張ればどんなことでもできるんだ』ということが伝わればいいな、と思いながら演じました」と話していました。



接遇研修を実施

6月の新病院開院に向けて“地域・近隣の住民から選ばれる病院や老人保健施設を目指そう”をテーマに、平成22年1月26日、2月2日の2回に分けて篠山市民センターで接遇研修会を実施し、篠山キャンパス全職員が参加しました。

研修は接遇向上委員会の指導のもとに行われ、最初にアンケートに回答して自身の接遇態度を見直し、研修DVD「医療スタッフの接遇マニュアル」を視聴した後、5、6名ずつのグループに分かれて「明日から実行できる接遇改善点」についてディスカッションを行いました。グループ毎にまとめた改善点を発表し、最後に上谷看護部長が講評されました。



篠山病院整備工事の進捗状況(1月末現在)

長期気象情報によると、“今冬は暖冬”との予報でしたが、それに反して寒い日が続いており、篠山市内でも時々雪が舞う日がありました。そのような中、建設工事は外装仕上げをほぼ終えて、内装、設備配管・配線工事と屋内での作業が最盛期を迎えています。1月末には、病室(4床室)のモデルルームの仕上げを先行して完成させ、病院関係者の立会いにより確認していただきました。

工事に設置されていた建物外周の仮設足場が1月下旬から順次取り払われて、外観が姿を現しました。完成まで約3ヶ月となり、建築・電気・機械等あわせて約300名の作業員が連日、鋭意作業を行っております。



洗面スペース



モデルルームでの確認風景



2階 北側屋上より



先行して完成されたモデルルーム



建物全景(東南側上空より)

公開講座「いのちのリレー ～臓器移植の新たな時代を迎えて～」を開催

平成22年1月9日(土)兵庫医療大学オクタホールにおいて、ポーアイ4大学連携推進センター ポーアイ健康・生活支援ステーション主催による公開講座「いのちのリレー ～臓器移植の新たな時代を迎えて～」が開催され、315名(うち兵庫医療大学 学生230名)が参加しました。

脳死からの臓器移植が始まって10年を過ぎても臓器提供は少なく、小児の道も閉ざされていました。臓器移植法が改正され、本年7月からは本人の意思が不明でも家族の了承で臓器提供が可能となり、年齢制限がなくなり小児への心臓などの臓器移植が可能となるなど、日本における臓器移植は新たな時代に入ります。

心臓外科医として心臓移植の再開からこれまで、臓器移植の普及に尽力してきた兵庫医療大学 松田学長、臓器移植を専門とされている大阪大学医学部附属病院 福嶋先生、兵庫県臓器移植コーディネーター 藤原さん、移植を受けられた患者さんやドナーのご家族が、臓器移植の現状と課題、これからの展望について講演を行いました。



松田学長



大阪大学医学部附属病院
移植医療部 福嶋副部長



講演プログラム

- ・「臓器移植の現状」 松田 暉 兵庫医療大学学長
- ・「改正された法律について」 福嶋 教偉 大阪大学医学部附属病院 移植医療部 副部長
- ・「臓器提供の現場から」 藤原 亮子 兵庫県臓器移植コーディネーター(兵庫医科大学病院)
- ・移植を受けられた患者さんやドナーのご家族による講演

特別講演 「阪神・淡路大震災(1.17)から学ぼう」を開催

平成22年1月17日で阪神・淡路大震災の発生から15年を迎え、兵庫医療大学では1月18日に特別講演「阪神・淡路大震災(1.17)から学ぼう」が開催されました。

オクタホールを主会場に全学部1・2年生が参加し、松田学長の挨拶の後、多くの犠牲者への追悼とご冥福を祈り、黙祷を行いました。また特別講師として、社会福祉法人神戸福生会理事長中辻直行氏をお迎えし、「災害と在宅ケア」についてご講演いただきました。中辻氏ご自身の震災当時の体験を交え、高齢化社会を襲った震災と孤独死との関係や、震災時における在宅ケアのあり方について、貴重なお話しをいただきました。最後に阪神・淡路大震災に関連する記録ビデオを見て、地震が起きた時にどう行動したらよいかということや、普段からの備えについて学び、防災への意識を高めることができました。



第2回実験動物慰霊祭

平成22年1月22日(金)午後12時30分よりオクタホールにおいて、兵庫医療大学実験動物慰霊祭が執り行われました。

本学での実験動物慰霊祭は今年で第2回となり、教職員並びに薬学部3年生と1年生全員が出席し、黙祷の後、動物実験実施教員を代表して薬学部田中稔之教授が慰霊の詞を述べられました。次いで動物実験委員会委員長、動物実験センター運営委員会の各委員長、実験動物管理者、動物実験実施教員代表者、事務部代表者の代表献花に続いて学生代表として薬学部3年生の澤田友宏さんと1年生の浅海裕さんが献花を行い、参列者全員が教育、研究のために尊い命を捧げてくれた動物の御霊の安らかならんことを祈りました。



地域交流プロジェクト「知っておきたいがんの基礎知識 ～がんとどう付き合うか～」を開催

平成22年1月、ポーアイ4大学による連携事業の一つとして、8回シリーズで兵庫医療大学薬学部の教員と兵庫医科大学病院の医師による公開講座「知っておきたいがんの基礎知識 ～がんとどう付き合うか～」を開催しました。

『「がんは怖い病気」、とただ恐れるだけではなく、がんの予防のために、また、もしがんになった時にどのようにがん付き合っていくか』をテーマに、がんの発症、薬物療法、予防など、知っておきたいがんの基礎知識について各分野の講演を行いました。各講座とも40名以上の参加がありました。参加者から多くの質問をいただき、活発な講座となりました。



1月27日「抗がん薬の副作用をどう防ぐか」清宮 健一教授

開催日	テーマ	講師
1月20日	『発がんとうんの悪性化』	田中 稔之 教授
	『がん薬物療法の目的』	岩崎 剛 教授
1月21日	『抗がん薬の種類とその作用』	青木 俊二 教授
	『抗がん薬の作用メカニズムと代替療法』	西山 信好 教授
1月27日	『抗がん薬の副作用をどう防ぐか』	清宮 健一 教授
	『がん予防のための食生活-リスクアセスメント』	西原 力 教授
1月28日	『がんの痛みと上手く付き合おう』～基礎の立場から～	戴 毅 准教授
	『がんの痛みと上手く付き合おう』～臨床の立場から～	柳本 富士雄 助教 (兵庫医科大学病院 ペインクリニック部)

(いずれもM-107講義室において17時から18時30分に開催)



さらに信頼される 学校法人兵庫医科大学を目指して

学校法人兵庫医科大学理事 | 難波 光義
(経営企画室長・兵庫医科大学病院副院長)

寅 年の2010年となって早二ヶ月が過ぎ、教職員の皆様も少し落ち着いた気分で日常業務を遂行していただけることと思います。まだ記憶に新しいところですが、昨年の流行語大賞は「政権交代」でした。昨年末は私も医療界もご他聞にもれず、この新政権の「仕分け」の対象にされるのでは?といった、漠然とした不安に包まれていました。しかしながらわれわれに課せられたミッションは『善良で優秀な医療人を育成する』、そして『患者さんとそのご家族の幸せのために貢献する』ことであり、この本質はいつの世も変わることがない、すなわちこれまでの努力を正直に継続すれば必ず報われるという自信を取り戻しつつあります。

社 会一人一人ひとりが自らの職務本来の目標を見失わないことの重要性は今更というべきですが、われわれはこれまであまりに効率性・採算性・収益性を重んじすぎたため、かえって個々の本務を見失うという自己撞着に陥っています。わが国いや世界が、何が正義か? 真の価値とは? 何のために生きるのか? も分からなくなったかのような今日の混迷状態をみるにつけ、医療界に生きるわれわれはなおさら前述のミッションを復唱する必要があります。

2 008年のリーマンショックによる市場経済主義の崩壊のせいで、これまで無縁とも思えた気候変動をはじめとする地球上の全ての事象までが加担して、いわゆる「左前」あるいは「デフレスパイラル」的状況にある? そんな錯覚に皆が捉われてしまいました。すなわち公益性を無視する人間や組織が醸し出す、最終目的は目先の利得、あるいは金が金を生み出すという幻想に人々が踊らされた結果、出口の見えない閉塞感が全世界にばら撒かれてしまったのです。本来、消費者・ユーザー・顧客が企業・法人・組織に求めるものは、単に廉価・安易・融通性だけではなく、『満足度』であるという分析結果があります。これを兵庫医科大学

に拡張して考えてみると、卒前・卒後教育や基礎・臨床研究そして医療そのものに求められているのは、われわれが提供する『Qualityに根ざした、誠意・信頼・納得』ではないでしょうか。

少 しばかり喩えは異なるかもしれませんが、「桃李言わざれども、下自から蹊を成す」と、故人は説いています。富は「集める(作り出す)」ものではなく、「集まる(もたらされる)」ものであり、われわれ兵庫医科大学も、優秀な受験生や若手医師そして病の快癒やQOLの向上を求める患者さんが、自ずと蹊を成すメッカを目指さなければなりません。

法 人経営面での改革は、申すまでもなく理事長・学長・病院長のトップダウンで行われつつありますが、経営企画室は三者の協調と統合を図るとともに、そこに教職員の声をボトムアップで反映させながら、肅々と中期事業計画を実現してまいります。すでに描かれている西宮・篠山・神戸3キャンパスのランドデザインの第一歩がささやま医療センターのオープンと11号館(仮称)の建設です。より働きやすい職場づくりの実現に向け、各職域でのワーキングやタスクフォースがすでに活動中です。

い よいよ2010年度政府予算案も決定し、国をあげて不況脱出への長い戦いが始まりました。われわれはこの変革の時代を「ピンチはチャンス!」と捉えるべきであります。教職員の一人ひとりが「自分は何のために医療人を、医学研究者を、医学教育者を目指したのか?」志を立てられたあの頃の気持ちに立ち返って、個々のミッションを見直す好機であるとも考えられます。

教 職員の個々を取り戻す初心と各職域における創意工夫によって、本学が高度な教育・研究レベルと診療内容を社会に提供し、さらに信頼される組織に生まれ変わる、そのお手伝いにこの一年を捧げたいと思っております。

規程等の制定・改正(規程等の全文は学内ネットに掲載)

No	項目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
1	兵庫医科大学動物実験規程	情報公開における動物実験委員会の役割を明記するため改正。	平成21年12月15日
2	兵庫医科大学における研究活動に係る不正行為に関する取扱規程	本規程における申立窓口を内部監査室に変更し、公的研究費管理・監査規程との統一を図るため改正。	平成22年 1月12日
3	兵庫医科大学廃液処理委員会規程	本規程に記載する講座名等の名称を現状の組織名に合わせるため改正。	平成22年 1月12日
4	兵庫医科大学客員教授の委嘱に関する規程	客員教授が兵庫医科大学医学会総会における特別講演を行うことに関する改正。	平成22年 1月26日
5	兵庫医科大学における主任教授及び教授に関する申し合わせ	主任教授(従来の教授)及び教授(従来の教育教授及び臨床教授)の職名に関する申し合わせを制定。	平成22年 2月 1日
6	地域医療・総合相談センター規程	入退院管理室の設置に伴う業務の移管により改正。	平成22年 1月12日
7	地域医療・総合相談センター運営委員会規程	入退院管理室の設置に伴う業務の移管により改正。	平成22年 1月12日
8	兵庫医療大学衛生委員会規程	労働安全衛生法に基づき、兵庫医療大学に衛生委員会を設けるため制定。	平成22年 1月12日
9	学校法人兵庫医科大学寄付行為	附属看護専門学校の閉校に伴い設置する学校から削除するため改正。	平成21年12月16日

兵庫医科大学 兵庫医科大学病院 兵庫医療大学 学校法人兵庫医科大学

教職員提案制度について

教職員提案制度は平成19年12月からスタートし、平成22年1月までに80件を超える提案がありました。提案内容は経費削減、日常の仕事の中でのムダの削減、患者さんの立場からの提案、社会貢献、制度面での改善などの提案がありました。各提案については事務局関係部署と協議し、取り組みの可否、実施の場合は主管部門を決め、完了するまでは定期的に点検しております。

今後も学校法人兵庫医科大学で行われているさまざまな業務等について、「ムダ・ムラ・ムリ」をなくす提案を幅広く募りますので、積極的にご提案くださるようよろしくお願いいたします。提案方法、様式などは学内ネットをご覧ください。

提案例:抜粋

アメニティーの充実	阪神武庫川駅改札付近への病院案内看板の設置	エコキャップ運動の参加
旅費・グリーン料金のありかた	ペーパーレス化への取り組み	会議で配布資料の削減
通勤手当の支給方法の変更	事務職員採用者の研修	事務用品(文具等)の削減
不用品の再利用先募集	学内ネットの充実・整備	コピーの削減
パソコン設定による電気代削減	不要な場所の消灯	学部学生のエレベータ使用方法
清掃回数の見直し	学内用封筒の再利用	残業の削減方法



患者さんに安心して診療を受けてもらうために

兵庫医科大学病院 臨床検査部

臨床検査技師 柴山 沙織 さん 石井 里佳 さん (左から)

臨床検査部には、直接患者さんと接する生理機能検査室と採血室、血液や尿などの検査を行う検体検査室、遺伝子検査室、微生物検査室があります。約50名のスタッフが、検査法の研究や検査技術の研鑽に努め、正確で迅速な結果報告を24時間体制で行っています。全ては患者さんに安心して診療を受けていただくため、病院全体をサポートすることを臨床検査部の使命だと考えています。

また、チーム医療における「検査データのスペシャリスト」として、積極的に検査室の外でも患者さんをサポートしていきたいと考えています。たとえば、血糖値の専門領域を担う糖尿病療養指導士を目指すなど、新たな取り組みも始めています。

「患者さんの不安や緊張感を和らげたい

柴山 沙織 さん

生理機能検査室で心電図、呼吸機能、脳波、筋電図などの検査を担当しています。患者さんは不安や緊張を抱えながら検査を受けにこられるので、リラックスして受けていただけるよう、優しく話しかけるなどコミュニケーションの取り方に気をつけています。特に、脳波や筋電図の検査では症状の重い患者さんもおられ、不用意な言動で傷つけてしまったりしないよう、慎重な対応を心がけています。



「社会に貢献したい」という思いで医療の道に進みました。臨床検査技師を選んだのは患者さんと接することができ、かつ検査データの分析などもやりがいがありそう、と思ったからです。検査は24時間体制を取っているため、日々の業務に加えて当直業務があります。忙しくはありますが毎日が充実しており、「緑の下の力持ち」として頑張っています。

「検体を「患者さん」と思って大切に

石井 里佳 さん

検体検査室で、主に生化学・免疫検査を担当しています。直接患者さんと接することが少ない分、検体を患者さんと思って大切に扱い、そこから最大限のことを引き出すように心がけています。検査結果に少しでも気になる点があれば、担当医と相談して徹底的に調べます。今後は生理機能検査室、微生物検査室でも経験を積み、また学術的にもスキルアップをしていきたいです。

中学生の時に学校で実施した尿検査で白衣の女性が働く姿を見て、初めて「検査技師」に関心を持ったことを覚えています。実際に働き始めて「きっちりとした性格。データ解析に向いている」と上司に言ってもらった嬉しかったです。スタッフは皆とても真面目で、休憩中であっても症例検討の話になったりすることもしばしば。互いに支えあいながら働ける職場です。



6月開院ささやま医療センターの電子カルテ導入に向けて頑張っています

兵庫医科大学篠山病院 病院情報システム構築委員会

地域総合医療学 准教授 有井 融 さん (委員長) 地域総合医療学 講師 岡山 明洙 さん 第1病棟 師長 西山 静香 さん
外来 主任 溝端 美保 さん 事務部 医療情報・病歴課 課長 春木 敏弘 さん 主任 井上 覚 さん (左から)

6月開院のささやま医療センターでは電子カルテを導入します。患者さんの全データを一元管理することにより、いつでも、どこでも病歴や検査、処置などを確認でき、診療科や部門の枠を超えた、横断的で効率のよい診療・業務が可能となります。また、従来のカルテ保管場所も必要なくなります。

「患者サービスの向上に向けて

有井委員長

平成21年2月に病院情報システム構築委員会が発足し、システム導入に向けた定例会議と部門毎のヒアリングを行っています。現在は要件定義の段階で、電子カルテを用いた業務フローを検討しており、これから各種マスタや運用マニュアルを作成し、3月末の操作訓練、5月中旬のリハーサル実施、6月のオープンに向けて準備を進めています。

予算の都合で、当初は電子カルテシステムの導入範囲に想定していた部門システムが導入困難となる中、想定範囲を縮小せずに必要な仕様を充足できる方法を模索しました。その一例ですが、内視鏡や超音波などの画像データについても、PACS(医療用画像管理・電送システム)に収容し、放射線画像データと一緒に管理する仕様に変更することで、今回導入できなかったシステムの仕様を補うことが可能となりました。その他、電子化を見送った部分についても、導入効果を十分に検討し、順次導入していきたいと考えています。

電子カルテの導入により、患者さんの情報の共有が一層進みます。診療する上で重要な、禁忌やアレルギーの情報などをリアルタイムで確認でき、医療安全の向上も期待できます。また、院内の連携をよくするだけでなく、丹波・篠山地域の病院や先生方と医療連携を深め、患者サービスの向上に繋がりたいと考えています。

「無事にオープンの日を迎えたい

春木課長

各診療科・部門から選出された委員は本務との兼務で多忙を極めていますが、導入作業も佳境に入り、6月のオープンに向けて更に負担が増えます。一人ひとりの負荷が偏らないよう、配慮していきたいと思っています。委員全員が体調を崩すことなく無事にオープンの日を迎えたいですね。

「システムの調達や評価プロセスに神経を使いました

井上主任

最も神経を使ったのが電子カルテシステムの調達や評価プロセスです。公的資金が投入されることで、今まで以上にその過程を明確にしなければならず、公的機関で実施されている導入例や調達方法を参考にしました。兵庫医科大学での従来のやり方と異なる部分が多かったため、関係者には時間をかけて繰り返し説明を行い、理解してもらいました。





専門知識と実践力で“生活”を支援

兵庫医療大学 看護学部(生活支援看護学)

老年看護学 教授 大町 弥生 さん 地域看護学 教授 上原 ます子 さん 在宅看護学 准教授 青木 菜穂子 さん (左から)

生活支援看護学は

生活支援看護学は老年、地域、在宅看護学の3分野から成ります。特色として、看護を提供する場が人々の身近な地域や家庭、居宅に近い生活を営む施設等で、実践する看護もその人の“生活”に深く関わりながら健康と人生を支援しています。現在3分野の教員10名が、学内での講義・演習、それを発展させて学ぶ臨地実習を担当し、老人保健施設、保健所・保健センター、事業所、訪問看護ステーションに学生とともに向かい教育に取り組んでいます。研究室内では、講義内容や演習資料のファイルを作成して、共有・蓄積しています。

将来を見すえて楽しく学ぶことをサポートする

【老年看護】 担当する科目の一つに介護老人保健施設での老年看護学実習があります。教員と施設内の指導者のサポートにより学生は「施設で生活する高齢者の看護」について学びます。学生は生き生きとケアを実践し、高齢者から学生を心待ちにされるような関係を作り上げていく中で、楽しく学んでいます。

【地域看護】 地域看護学には2つの重要なミッションがあります。一つは卒業後に病院に就業する大多数の学生が、患者・家族の方々の入院前や退院後の生活と地域の保健医療福祉システムや社会サービスを理解して看護に応用する能力を養うことです。もうひとつは看護学部で行われる共通科目や専門科目を踏まえて、保健師教育を中心的に担います。将来保健所・保健センター等の保健・福祉行政、産業保健、病院の調整部門や健康管理部門において、科学的根拠や思考に基づき健康を支援できる専門知識と実践力を具えた保健師を育成することです。

【在宅看護】 在宅看護の目的は、疾病や障害をもつ個人やその家族に対して心身と社会生活への影響を最小限にすることを“生活”を中心に考え、対象者が自立して生活できるよう他職種との連携による マネジメントを含めて

総合的に看護を提供することにあります。学生の多くは卒業後に臨床の場で看護業務に就くことを考え、看護を提供する場が変わっても、対象者の安心と安全を確保する医療・看護の継続について考えて実践できる看護職者になることを目指して関わっています。

これまでの研究を軸に看護を追求する

【老年看護】 『ポアイ4大学による連携事業—健康・生活・安心サポート—』の一環として健康生活を守るための介護予防・介護する人への支援も今年度で3年目となり、神戸女子大学と協力して健康生活を推進する方法を模索しています。

【地域看護】 研究対象は各教員の専門性に応じて、地域住民や勤労者、子ども・母親・高齢者など地域で生活する多様な発達段階の人々であり、がんや精神保健、心身の障がいなど、第1次予防から第3次予防までバラエティーに富んだ研究活動を行っています。

【在宅看護】 これまでの現場経験や研究を活かして、これからの在宅看護や看護マネジメントについての研究を続けていきたいと思っています。



前列左から富永准教授、大町教授、上原教授、青木准教授
後列左から平木講師、尾ノ井講師、山田助教、松本助手、加藤助手、藤村助教



支えあい、励ましあえる仲間がいます

兵庫医科大学病院 看護部 1号館6階西病棟

看護師 安田 美紀 さん 鎌田 有加 さん 産科婦人科 助教 和田 龍 さん (左から)

1号館6階西病棟は婦人科と乳腺外科の病棟で、主に女性特有の疾患の治療を行う患者さんが入院されています。

手術や化学療法、放射線療法、緩和ケアなど、急性期から慢性期、ターミナル期までの患者さん一人ひとりにあったケアを行っています。治療はもちろんですが、看護の力=Careで、患者さんのQOLを向上させるために、疼痛やリンパ浮腫などの症状マネージメントを積極的に行っています。母親や祖母と同年代の患者さんも多く、家族のようによく話をし、明るく清潔感のある病棟です。

二人は同期入職。互いに励ましあい頑張ってきました。4年目の今はリーダー業務や後輩指導もしています。

患者さんの気持ちを明るくしたい

安田 美紀 さん

いつも笑顔で接することを心がけています。もともと「人の話を聞くのが好き」な性格で、患者さんのケアをしながら、また時間を見つけては側に行き、お話を聞かせていただくようにしています。入院や治療を辛く不安に感じられる患者さんも多いと思うので、気持ちが少しでも晴れて元気になってもらえると嬉しいです。

女性特有の疾患に対する治療では「女性のライフサイクル」が大きく関与しますし、急性期からターミナル期までその時期も幅広く、多様なケアが求められます。患者さんやご家族にとって重大な「治療の選択」に寄り添うこと、緩和ケアなど、最初は戸惑うことばかりでしたが、先輩方に励まされ乗り越えてきました。これらの経験を生かして、プリセプターとして私も後輩をサポートしていきたいです。患者さんからも、スタッフからも信頼される看護師を目指したいと思っています。

看護師になるのが夢でした

鎌田 有加 さん

安田さんと同じく、様々な状況にある患者さんに対して、どのようにサポートしたら良いかわからず、先輩方に助けていただければ良かったです。少しずつ経験を積み、医師やコメディカルと話しあいながら、積極的に動けるようになりました。患者さんの気持ちを大切に出来る限りのサポートをしていきたいと思っています。回復に時間がかかった患者さんが無事に退院された時はとても嬉しいですね。

家族に看護師がいて、幼い頃から看護師になることをイメージしていました。実際に看護師になって仕事の大変さを実感し、家族に対する尊敬の気持ちが強まりましたね。病棟にもベテランの先輩方がおられ、いつも多くのことを教えていただいています。

患者さんとのコミュニケーションはもちろん、スタッフ間のコミュニケーションも大切です。動きやすく明るい病棟に盛り上げていきたいと思っています。

